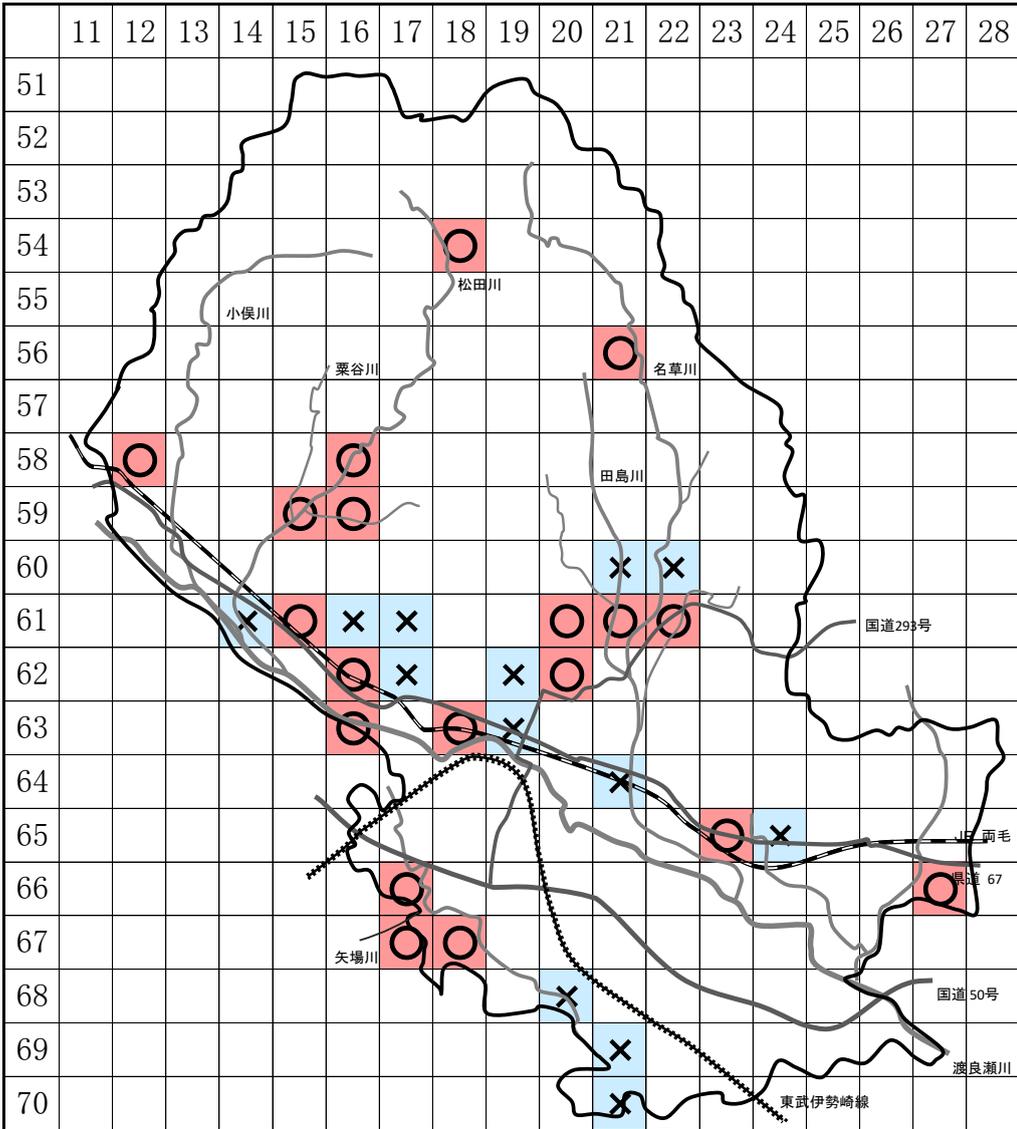
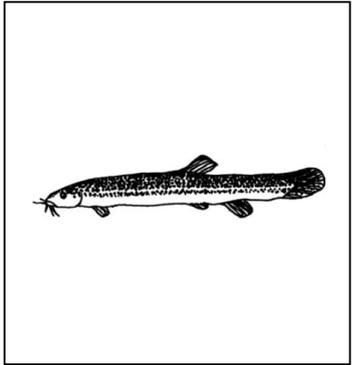


ど じ よ う	確認数： 19 メッシュ
	報告数： 32 メッシュ
	2020年度 23/34 2019年度 30/46

※過年度 確認数/報告数



しょうどうぶつやそうらい
小動物や藻類などを
た 食べる雑食性で、5月
がっ ざっしよくせい がっ
から7月が産卵期。雄
がっ きんらんき おす
のほうは雌よりやや小
めす ちい
さく 胸ビレが比較的長
むな ひかくてきなが
いようである。

えらでのこきゅうほかに
ちよう こきゅうほかに
腸での呼吸もできるた
め、直接水の表面から
ちよせつみず ひようめん
くうきをすいこむようす
くうき すいこむようす
が見られる。さらに、
ひふでもこきゅう
みずがなくてかっすいき
め水がない渇水期に
どろなかす
は、泥の中で過ごす。

かんさつてきき
観察適期
がっ がっ
4月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

かくにん 確認メッシュの割合が約60%と、ちようさほうほう 調査方法をそれぞれのレポーターのみなさんがくふうしてちようさ
のぞ のぞに臨んでいただいているようすがわかります。ここ数年市内の主だった河川を中心に、水田地帯
おがわ ようすいろ せいそく
の小川、用水路に生息しているようすがうかがえます。

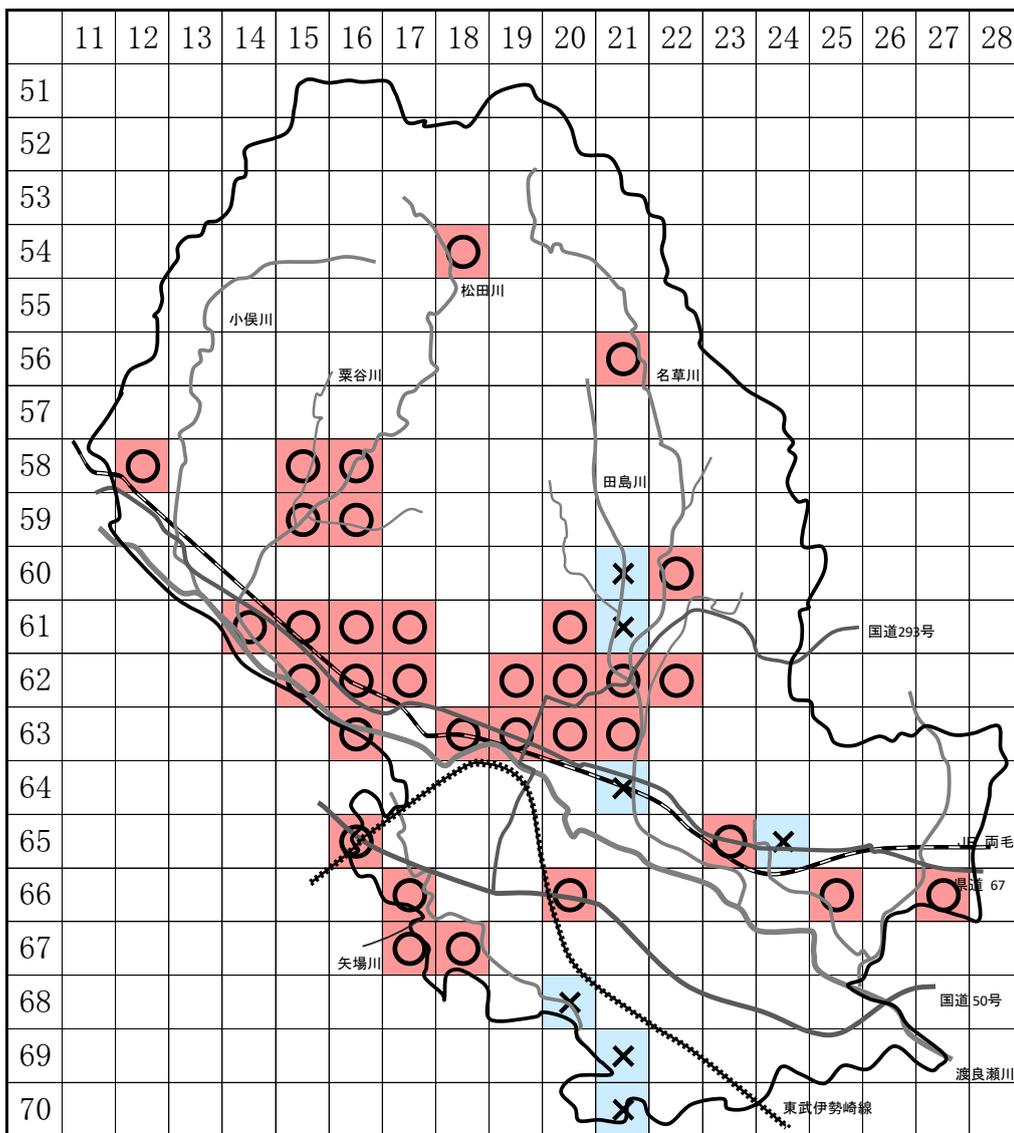
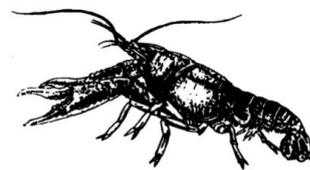
アメリカザリガニ

確認数： 33 メッシュ

報告数： 40 メッシュ

2020年度 37/43 2018年度 41/51

※過年度 確認数/報告数



昭和のはじめ、食用ガエルのえさとして輸入され全国に広まった。いわゆる“帰化動物”の代表。最近は数が減ってきている。

(ただザリガニという日本特産の種類で、アメリカザリガニよりやや小さい。北海道・東北北部の水のきれいな河川・湖沼にすむ。)

観察適期
5月～10月

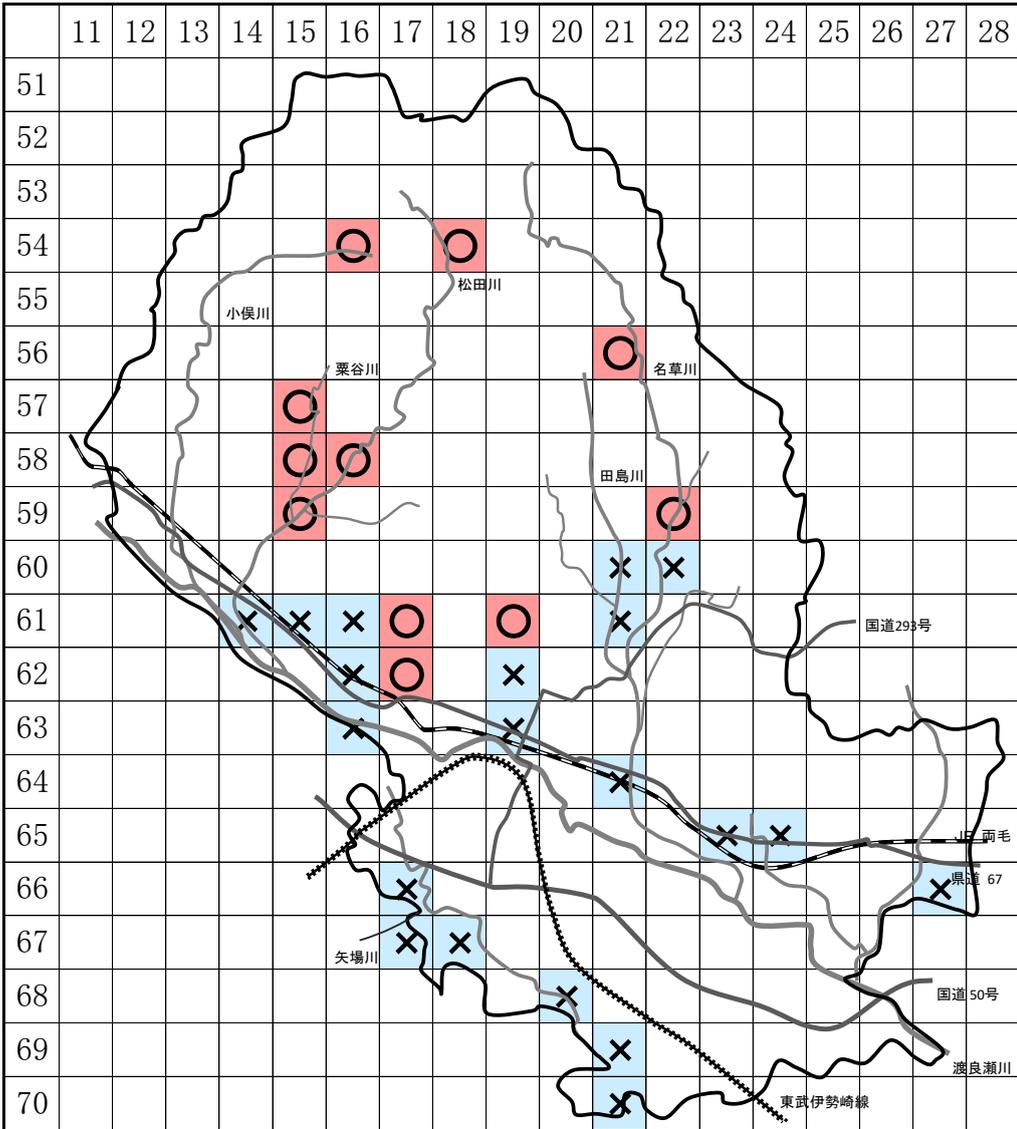
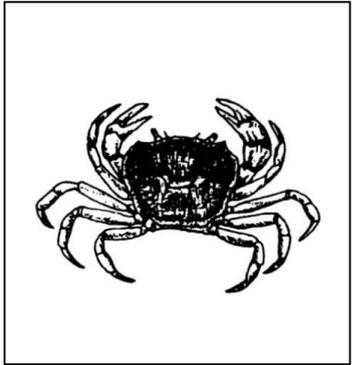
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

調査報告数に対して出現率が引き続き高い結果が出ています。大きな生息域の変化はないようです。多くの河川で上流部まで進出しています。季節ごとの河川のような変化や、個体の大きさの変化の関係などに注目して、1年間に数回観察していただくと、様々な発見があるように思います。

サ ワ ガ ニ	確認数： 11 メッシュ
	報告数： 31 メッシュ
	2020年度 12/27 2019年度 19/46

※過年度 確認数/報告数



日本ではただ一種の淡水産のおなじみのカニである。水のきれいな小川や山地の溪流に見られる。甲の色は茶褐色、うす青色、うす黄色などの変化がある。近年、水の汚れが進み、次第に生息場所がせばめられてきている。

かんさつできき
観察適期
5月～10月

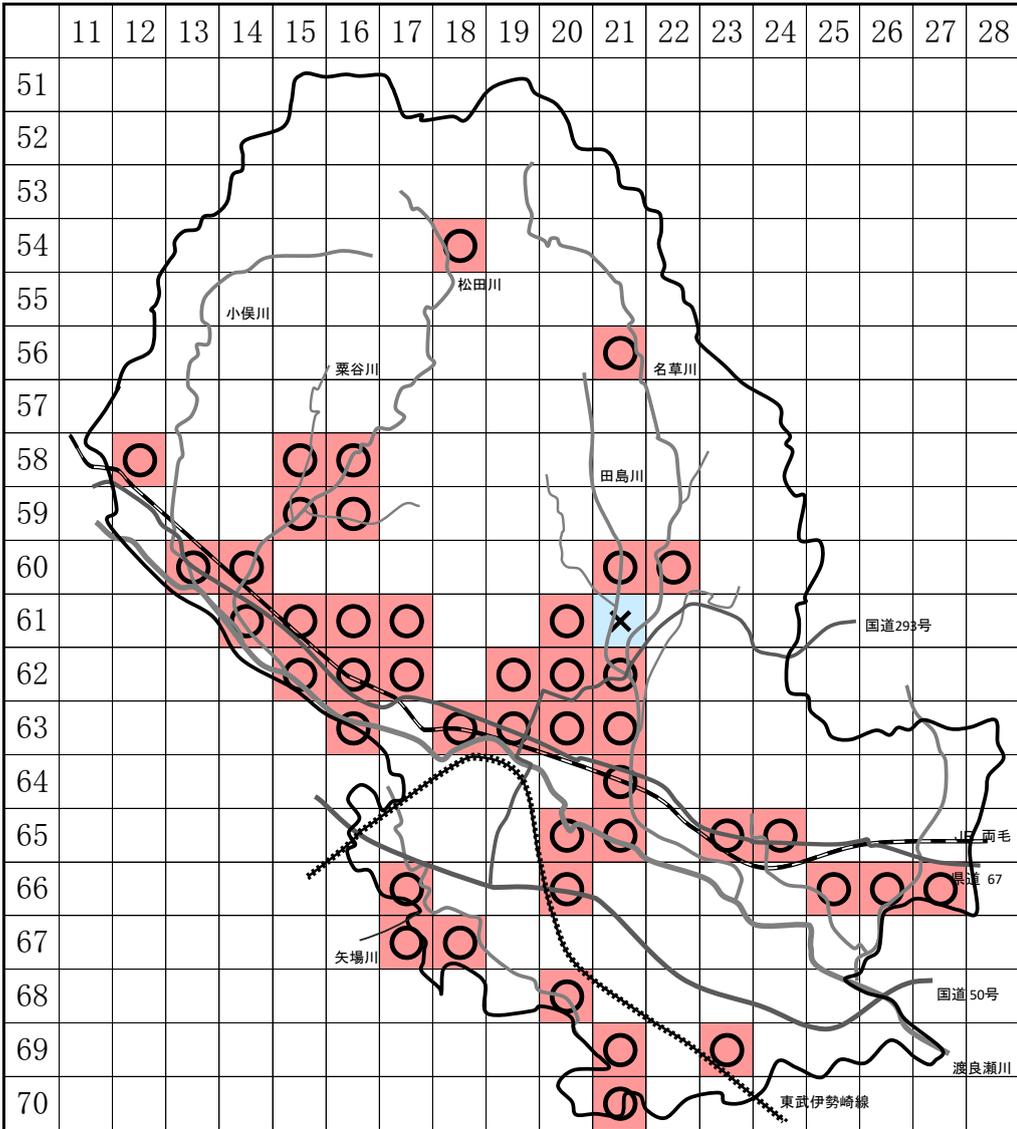
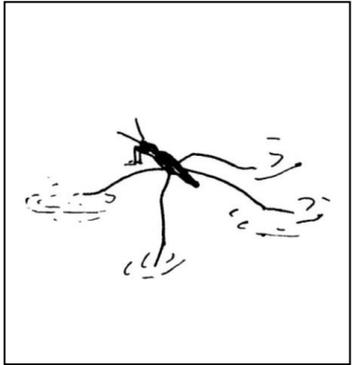
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

各河川の上流域で、継続して生息が確認されているようですが、ほとんどの河川で市街地に近いところから下流での確認ができていません。ますます、生息地域が限られてきているようです。

ア メ ン ボ	確認数： 43 メッシュ
	報告数： 44 メッシュ
	2020年度 53/57 2019年度 56/58

※過年度 確認数/報告数



ながあし すいめん
長い足で水面をスイ
スイと滑走するおなじ
みの昆虫で、あめのよ
うな甘いにおいを持つ
ている。いけ めま かわ
池や沼、川に
ふつうに見られる昆虫で
ある。

かんきつてきき
観察適期
がつ がつ
5月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

あいかわ 相変わらず、しゅつげんりつ 出現率がひじょう 非常にたか 高く、かんきつ 観察するときに はっけん 発見しやすいせいぶつ 生物であることがわかります。へいち 平地でもさんかんぶ 山間部でもすいでんちたい 水田地帯を中心にひろく 広く、かず 数も多くおお 生息しているようすがはつきりわかります。

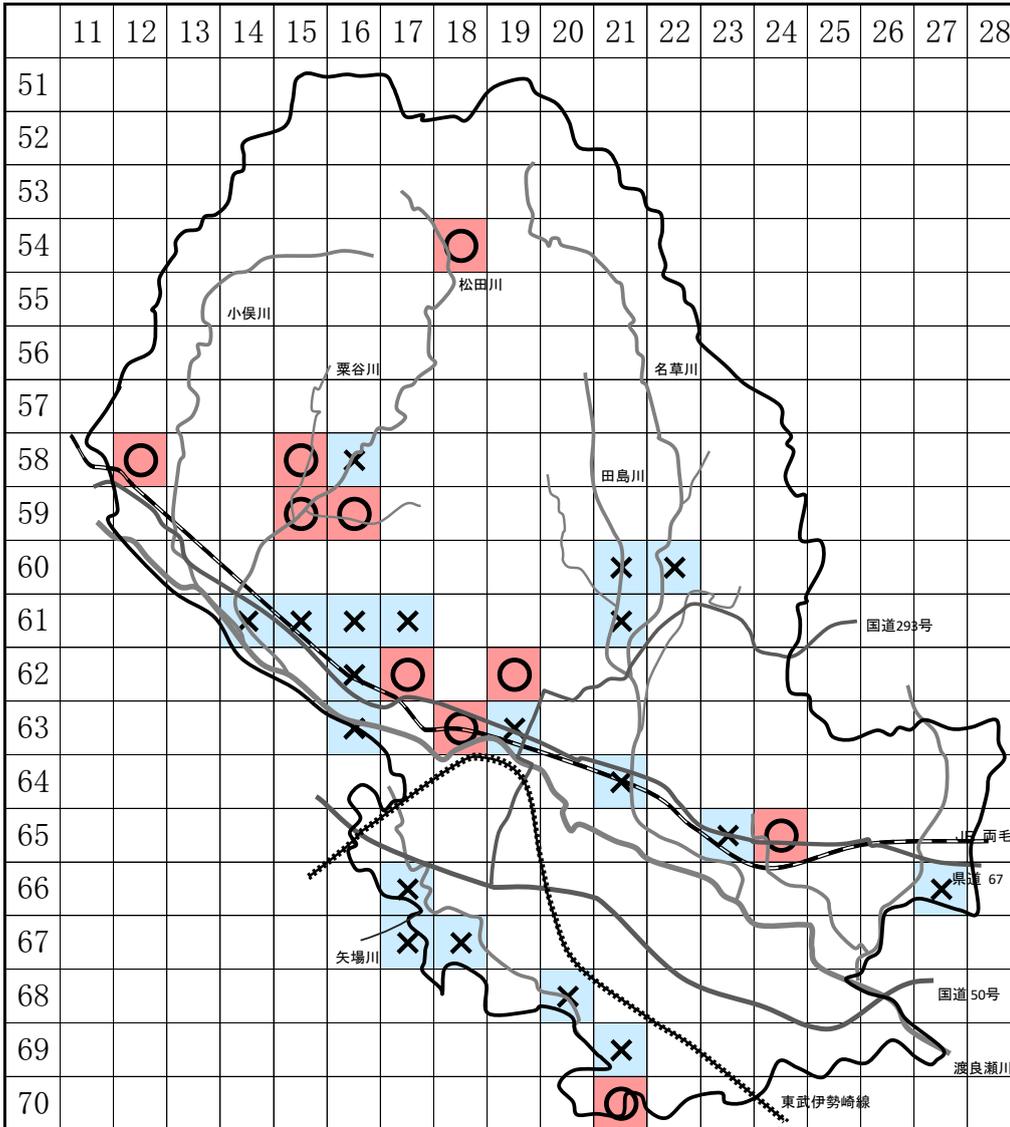
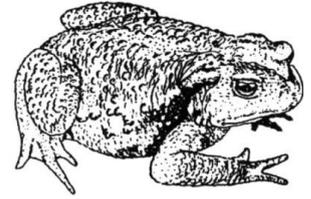
アズマヒキガエル

確認数： 10 メッシュ

報告数： 29 メッシュ

2020年度 17/27 2019年度 17/47

※過年度 確認数/報告数



ふつうガマガエルとよんでいる。平地や山地に見られ、人家の庭などにも現れるが、最近は少なくなっている。産卵期以外は水には入ることはほとんどない。河や池の周囲のくぼみや落ち葉の下などにかくれている。また夜行性のため、あまり人目につかない。

かんさつてきき
観察適期
がつ さんらんき
3月 産卵期
がつ
6月～8月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

依然として生育場所は限られてきているように思われますが、山ぎわ周辺を中心に生息しているようがあります。今年度も、河南地域で発見報告がありました。継続して発見されているメッシュについて、見守っていきたいと思います。

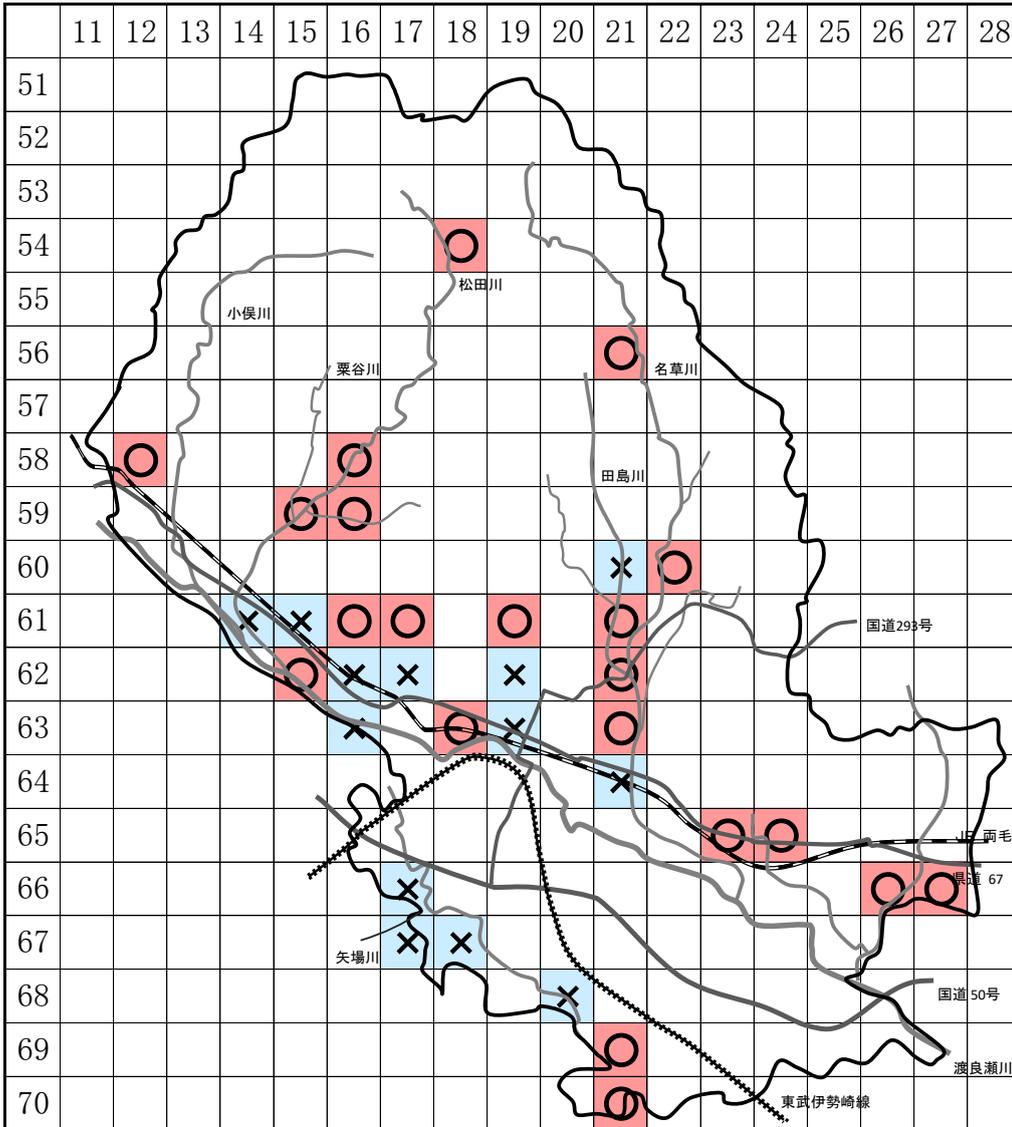
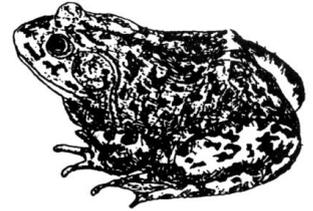
ウシガエル (食用ガエル)

確認数： 21 メッシュ

報告数： 34 メッシュ

2020年度 22/34 2019年度 24/49

※過年度 確認数/報告数



食用のため北アメリカから1919年に輸入され日本各地に広がった。平地の池や、幅広い溝や小川など水量の多い場所にすみ、夜間になるとウシのような大きな声で鳴く。行動はすばやい。

観察適期
6月～8月

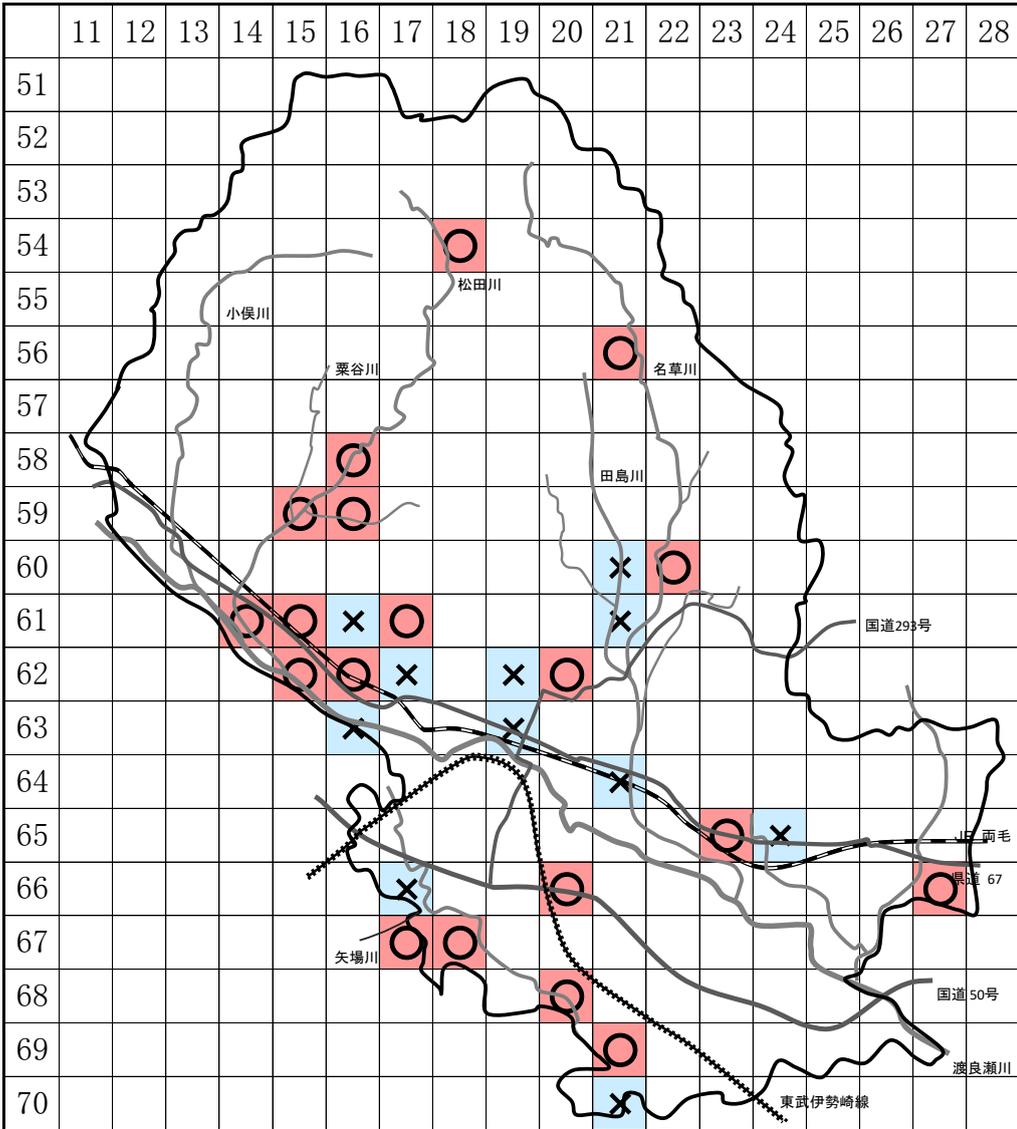
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

市内の主だった河川の中・下流域で確認されているようです。生息数の減少等心配する声もありましたが、生息に都合の良い環境を見つけて、子孫を残し住み続けているようすが見られます。

トウキョウダルマガエル	確認数： 19 メッシュ
	報告数： 30 メッシュ
	2020年度 20/30 2019年度 21/50

※過年度 確認数/報告数



この^{あた}りではトノサマガエルと言っているが、トノサマガエルは^{かんとう}関東にはいない。体長50～60mmぐらいで、トノサマガエルに比べてやや^{ちい}小さく、^{たいけい}体形は^{ふと}太めである。口先から^{くち}後方にかけて^{はい}灰褐色の^じ地に、^{いちぶ}一部または^{ぜんぶ}全部が^{みどりいろ}緑色をしている。^{はんもん}斑紋は^{くろ}黒褐色、^{えんけい}ほぼ^{かす}円形で^{すく}数が少ない。

かんさつてきき
観察適期
がつ がつ
6月～9月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

今年度も^{しゅつげんりつやく}出現率約60%となっており、^{しな}市内の^{こうはんい}広範囲で^{せいそく}生息が^{かくにん}確認できました。^{さまさま}様々なカエルの仲間が、^{せいそく}生息に^{つごう}都合の良い^{かんきょう}環境を見つけて、^{しそん}子孫を残し^{のこ}住み^す続けているようすが見られます。

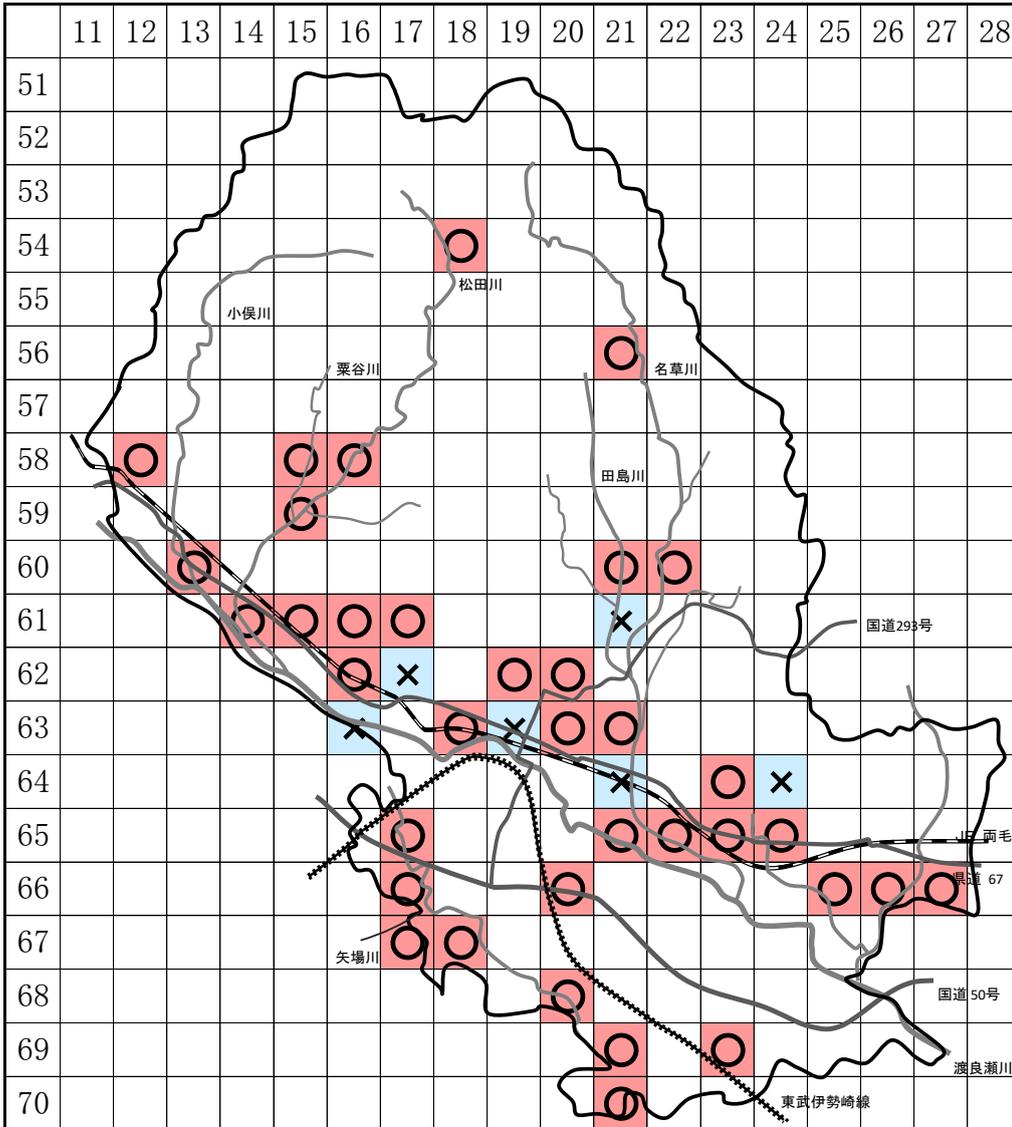
ニホンアマガエル (アマガエル)

確認数： 36 メッシュ

報告数： 42 メッシュ

2020年度 41/44 2019年度 50/59

※過年度 確認数/報告数



人家の植え込みや、
人家に近い低木、草む
らにすむ。雨が近づくと、
木や草の葉の上で
さかんに鳴く。指の先の
吸盤や緑色の体色は
樹上生活に適してい

る。
周囲のものに合わせて
体色を変化させる。
秋以降になると土の中
や石垣のすき間で冬眠
する。

かんさつてきき
観察適期
5月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

山間部も含め、市内全体に広く分布しているようすに変わりはないと思われます。「広い範囲に発見されているが、最近アマガエルの鳴き声が聞こえない。」という話を聞くことが多くなっています。生息場所も個体数も減っている可能性があります。